

概要

人口動態統計は、出生、死亡、死産、婚姻、離婚の5つの事象を、市町村に届け出された各届書から調査、把握したもので、人口集団の動向を知る上で重要な役割を果たしています。平成16年中における本県の人口動態の概況は、次のとおりです。

(表1) 人口動態の概況

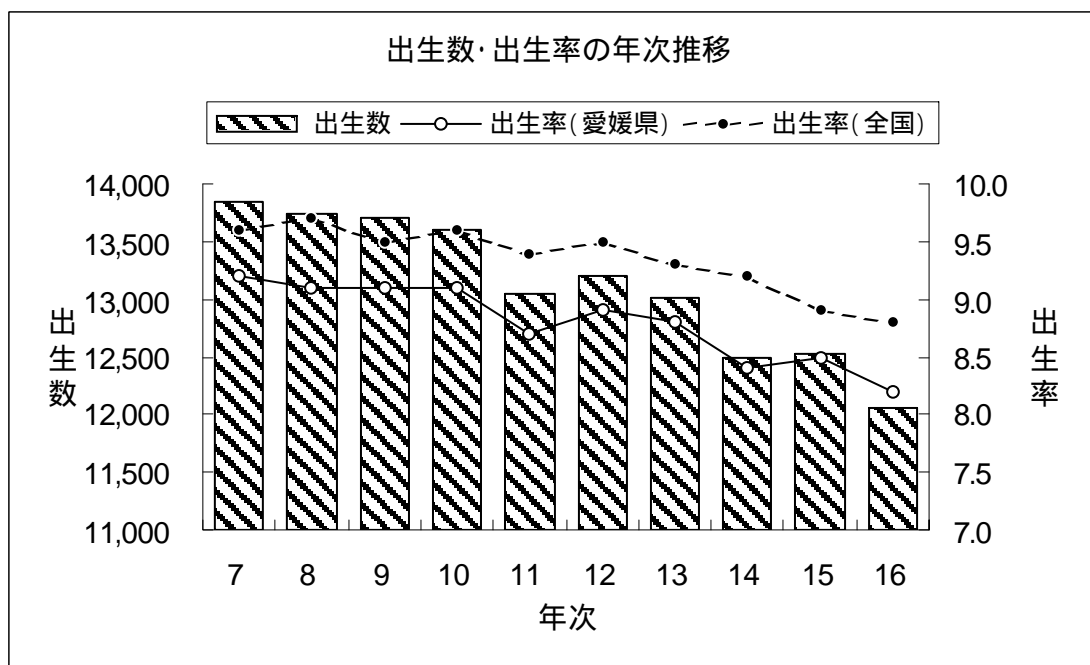
区分	実数			率			全国(16年)	
	平成16年	平成15年	差引	平成16年	平成15年	差引	実数	率
出生	12,057	12,534	477	8.2	8.5	0.3	1,110,721	8.8
死亡	14,664	14,715	51	10.0	10.0	-	1,028,602	8.2
乳児死亡	34	36	2	2.8	2.9	0.1	3,122	2.8
新生児死亡	14	22	8	1.2	1.8	0.6	1,622	1.5
自然増加	2,607	2,181	426	1.8	1.5	0.3	82,119	0.7
死産	394	397	3	31.6	30.7	0.9	34,365	30.0
自然死産	127	151	24	10.2	11.7	1.5	14,288	12.5
人工死産	267	246	21	21.4	19.0	2.4	20,077	17.5
周産期死亡	52	58	6	4.3	4.6	0.3	5,541	5.0
妊娠満22週以後の死産	40	45	5	3.3	3.6	0.3	4,357	3.9
早期新生児死亡	12	13	1	1.0	1.0	-	1,184	1.1
婚姻	7,339	7,612	273	5.0	5.2	0.2	720,417	5.7
離婚	3,215	3,405	190	2.19	2.31	0.12	270,804	2.15

	愛媛県		全国	
	平成16年	平成15年	平成16年	平成15年
合計特殊出生率	1.33	1.36	1.29	1.29

注1) 率: 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚は人口千対, 乳児・新生児・早期新生児死亡は出生千対, 死産は出産(出生 + 死産)千対, 周産期死亡・妊娠満22週以後の死産は出産(出生 + 妊娠満22週以後の死産)千対である。
 注2) 周産期死亡数は 妊娠満22週以後の死産に生後1週未満の早期新生児死亡を加えたものである。

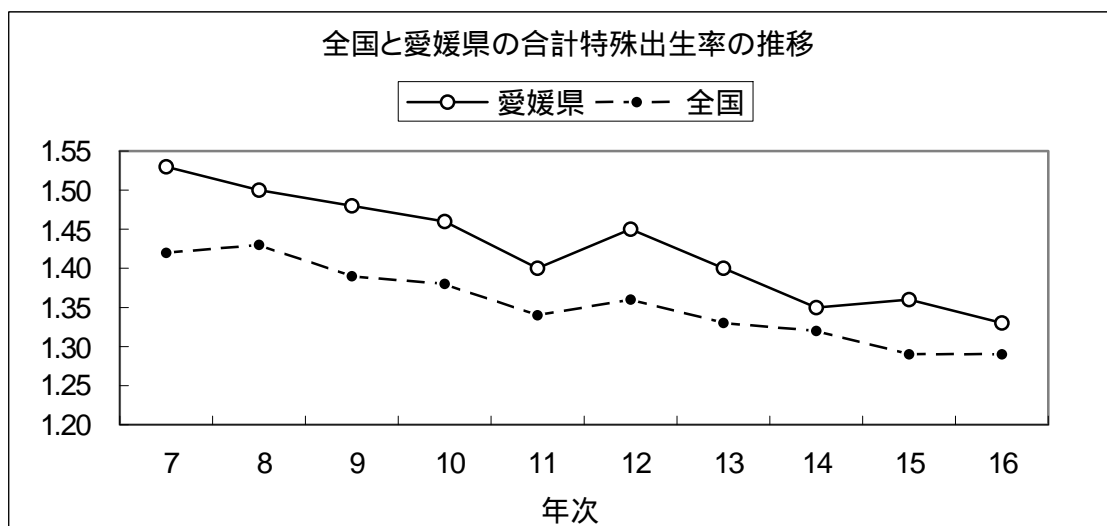
1 出生

出生数は12,057人で前年に比べて477人減少し、出生率(人口千対)は8.2で前年から0.3下回りました。



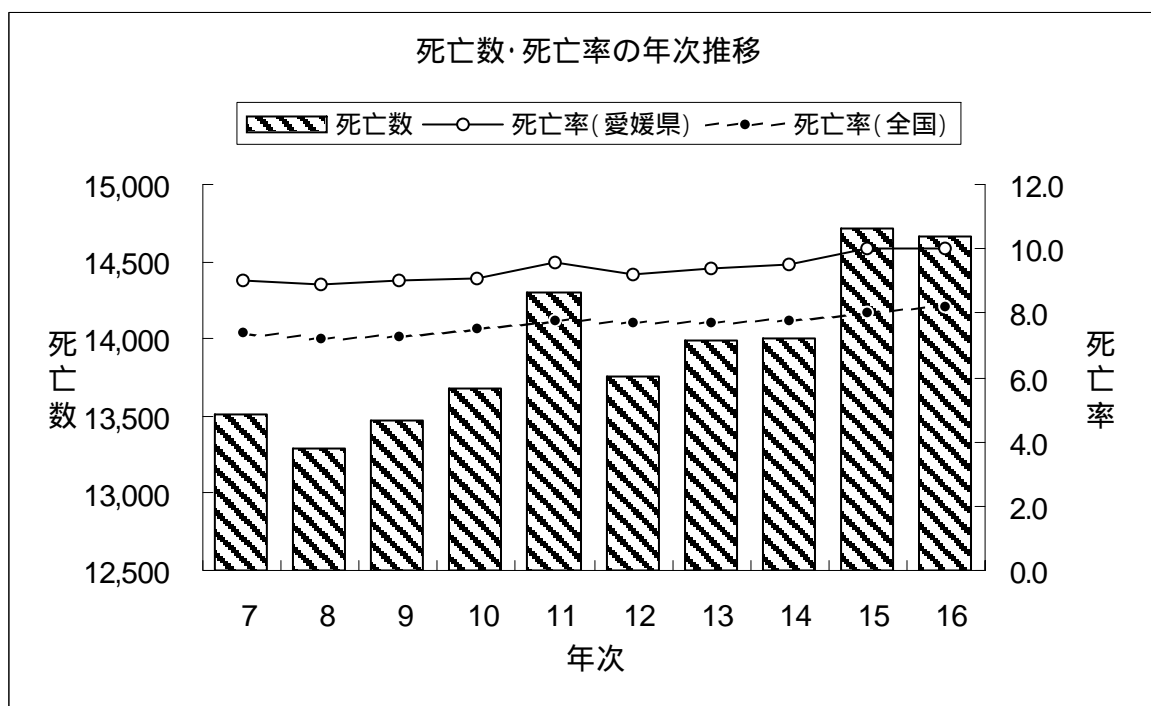
これは都道府県別の上位35番目で、全国平均に比べ0.6ポイント低く、四国内では香川県について2番目に高い率でした。

今後も平成16年と同じ率で子供が産まれると仮定すると、一人の女性が生涯に産む子供の数の平均(平成16年の合計特殊出生率)は1.33人で、前年を0.03ポイント下回りました。



2 死亡

平成16年中の死亡数は14,664人で、前年に比べて51人減少し、死亡率(人口千対)は10.0で前年と同率でした。



これは都道府県別の上位10番目で、全国平均に比べて1.8ポイント高く、四国内では高知県、徳島県について3番目に高い率でした。

10位までの死因順位を年次別にみると、表2のとおりです。県内の上位10位までの年次別死因順位は表3のとおりで、上位3死因と死亡率(人口10万対)は、

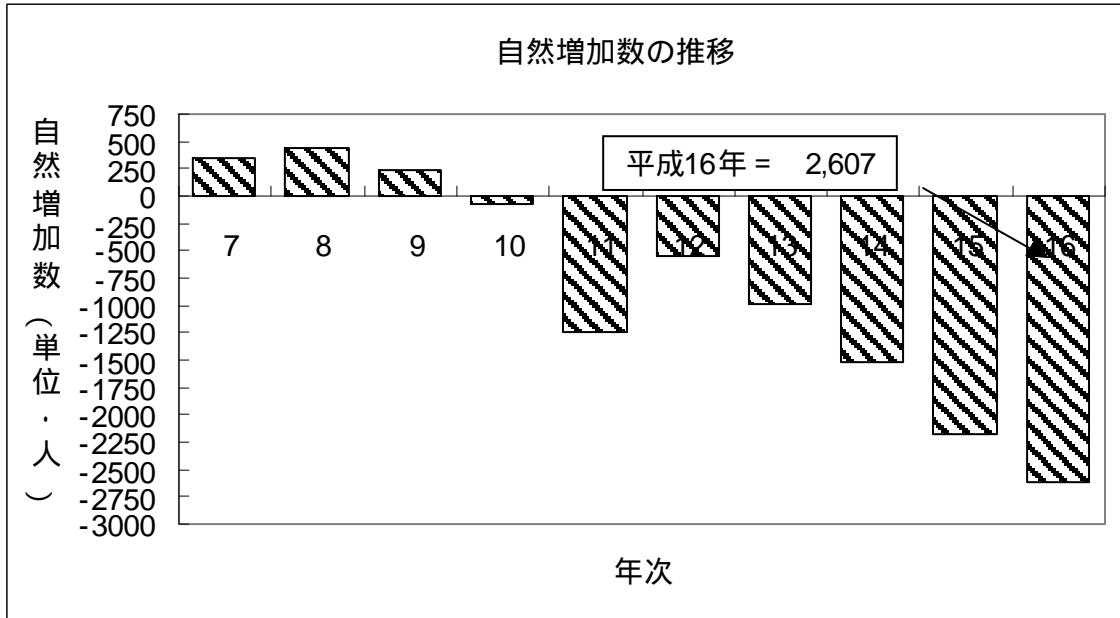
- 1 悪性新生物 276.2(全国253.9)
- 2 心疾患 181.4(全国126.5)
- 3 脳血管疾患 118.9(全国102.3)

でした。

なお、「悪性新生物」による死亡を部位別、年次別にみると表4のとおりです。

3 自然増加

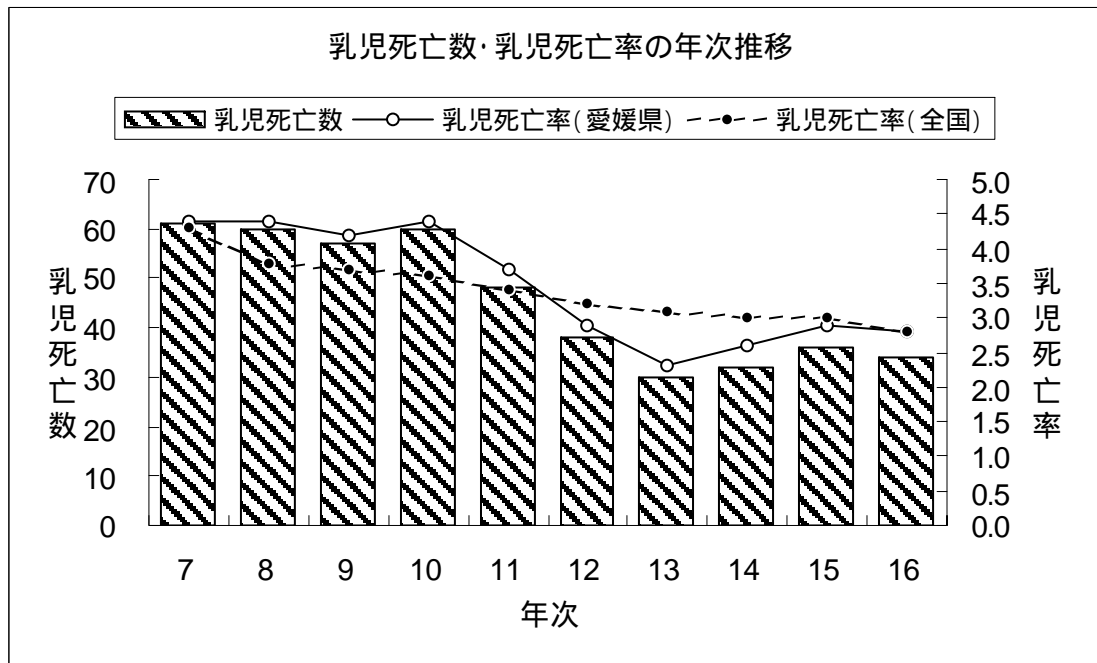
平成16年中の自然増加数はマイナス2,607となり、前年に比べ、426人減となりました。自然増加率はマイナス1.8で、前年を0.3下回りました。



これは全国平均に比べて、2.5ポイント低く、四国内では高知県、徳島県についで3番目に低い率でした。

4 乳児死亡

平成16年中の乳児死亡は34人で、前年に比べて2人減少し、乳児死亡率(出生千対)は2.8で、前年を0.1下回りました。

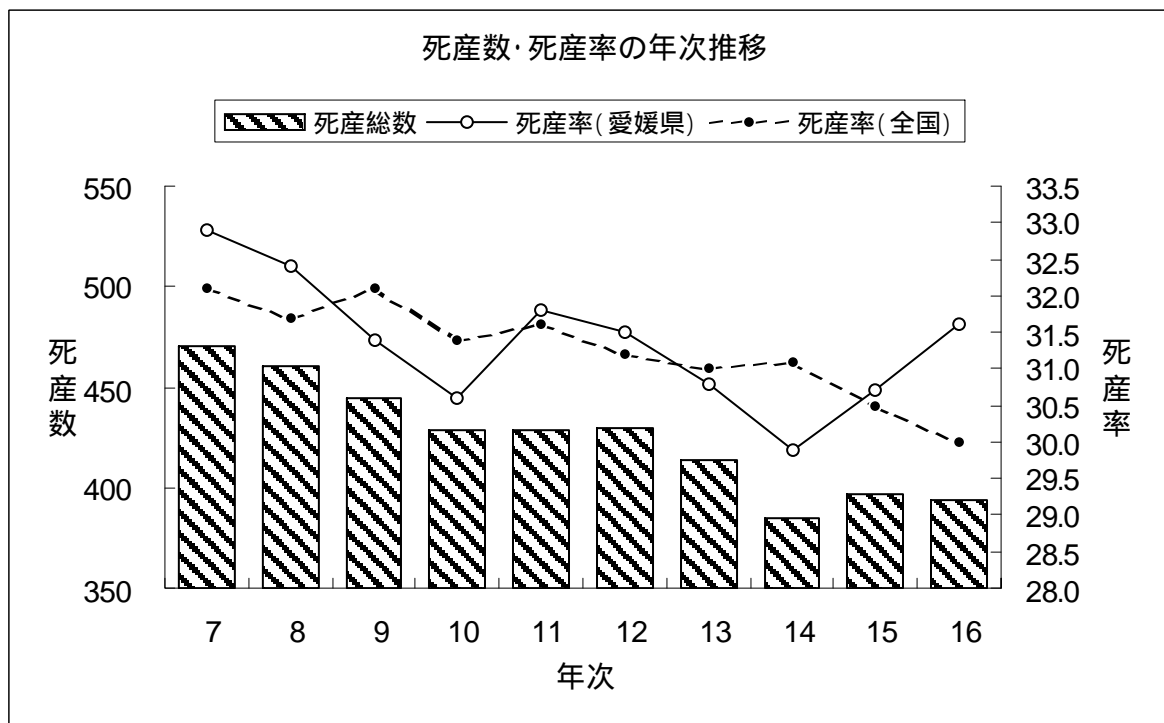


これは全国平均と同率で、四国内では最も低い率でした。

5 死産

死産とは妊娠満12週(第4月)以後の死児の出産をいい、自然死産と人工死産に区分されます。

平成16年中の死産は394胎で、前年から3胎の減少となり、死産率(出産千対)は前年を0.9上回る31.6でした。

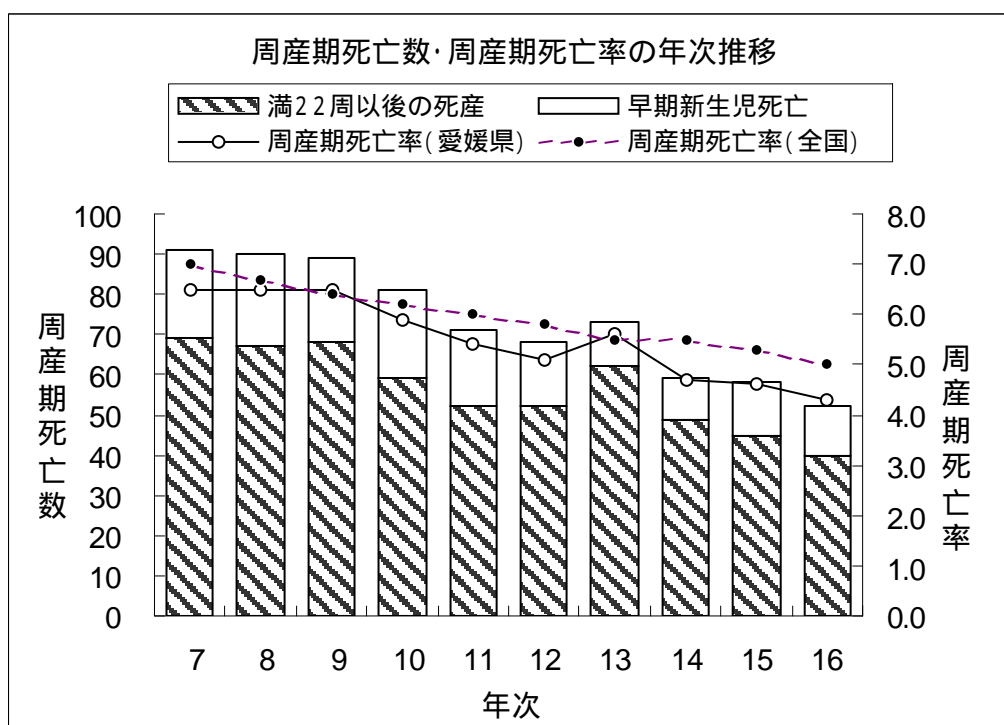


これは全国平均に比べ1.6ポイント高く、四国内では香川県、徳島県に次いで3番目に低い率でした。

6 周産期死亡

妊娠満22週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせて周産期死亡といいます。

平成16年中の周産期死亡数は、妊娠満22週以後の死産40胎、早期新生児死亡12人となっています。前年に比べて、前者は5胎減少、後者は1人減少しました。総数では52件で、前年に比べ6件減少しました。



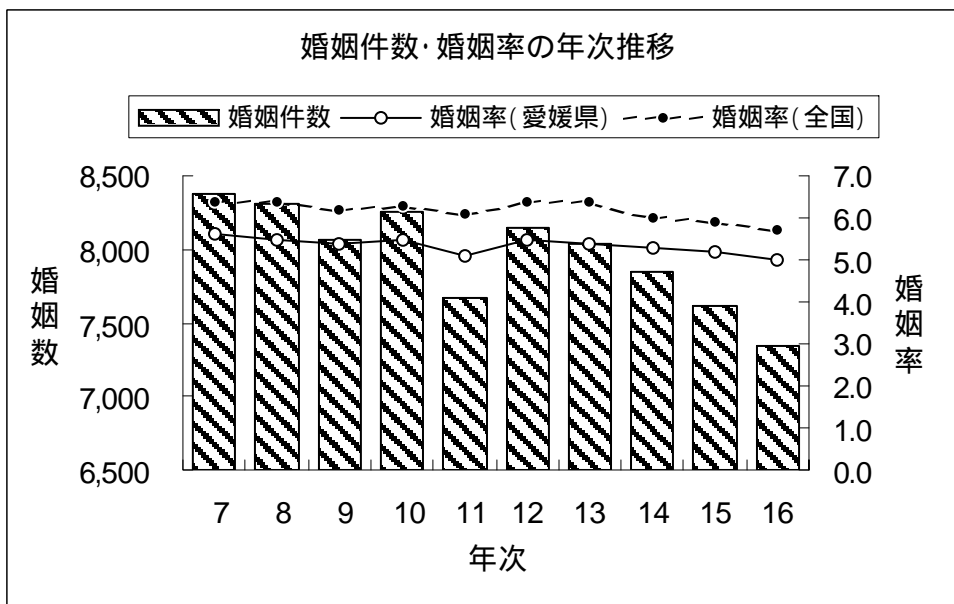
周産期死亡率(出生千対)は、妊娠満22週以後の死産3.3、早期新生児死亡1.0で、全体では4.3となっており、前年に比べて0.3ポイント減少しました。

全体の周産期死亡率4.3は、全国平均に比べ0.7ポイント低く、四国内では最も低い率でした。

なお、平成7年からは、「国際疾病障害死因分類」(ICD)の改訂に伴い、周産期死亡における後期死産の定義も「妊娠満28週以降」から「同22週以降」の死産へと変更されました。本書では、平成6年以前にも遡って満22週以降で計算し直した数値を用いています。

7 婚姻

平成16年中の婚姻件数は7,339件で、前年に比べて273件減少し、婚姻率(人口千対)は5.0で前年を0.2下回りました。

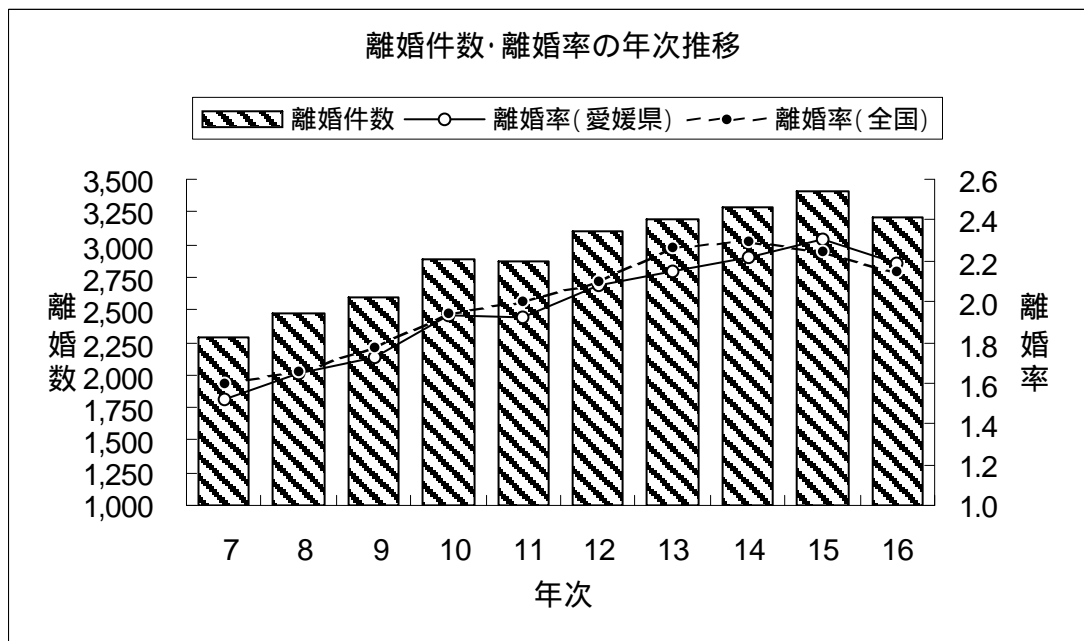


これは全国平均に比べ0.7ポイント低く、四国内では香川県に次いで2番目に高い率でした。

なお、初婚者の平均婚姻年齢は、夫28.7歳(前年28.5歳)、妻27.2歳(前年27.1歳)となっています。全国では、初婚者の平均婚姻年齢は夫29.6歳、妻27.8歳でした。

8 離婚

平成16年中の離婚件数は3,215件で、前年に比べて190件減少し、離婚率(人口千対)は2.19で前年を0.12下回りました。



これは全国平均に比べ0.04低く、四国内では高知県に次いで2番目に高い率でした。